

第 16 号



あいさつ
会長 原田 菊子
本年度を
振り返って

本年度の課題は、(一)活動の活性化 (二)親業講演会の実施 (三)結成五十周年記念事業の準備でした。

①活動の活性化について

前年度から取り組み始めました。その方法として、理事会のメンバー(本部役員と理事)が研修・交流・広報の三委員会のいづれかに所属し、企画・運営を中心となつて推進できるようにしました。内容は、研修(施設訪問等)、交流(新年会等)、広報(更女たより)でした。この方法は二年目とあつて事業に意欲的に取り組み成果を収めることができました。

もう一つの活性化として、県主催の研修に入会間もない会員に多く参加してもらいました。更正保護女性会の意義が少し

でも理解されたことと思います。

②親業講演会実施について

このような講演会は初めてでしたが、講師の話も好評で七十人余りの参加者に喜んでいただきました。その様子は次ページに詳しく掲載されておりますので、ご覧ください。

③結成五十周年記念事業の準備について

平成二十八年度に実施することになりました。概要は、式典・祝賀会・記念誌と輪郭が見えて来ました。実際に他地区の五十周年記念式典に参加したり、記念誌を参考にしたりしながら理事会で話し合つております。来年度には実行委員会を立ち上げ具体的に進めていく所存です。ご協力をよろしく願います。

★「愛の図書費」贈呈に寄せて

本年度の事業の中で忘れられない出来事がありました。その

感動を読売新聞の「ひろば」に投稿したところ、平成二十五年十二月十七日付で掲載されました。原文は次の通りです。

お礼状に感動

無職 原田 菊子
(川越市)

私たちは明るい社会をつくるため、仲間と共に非行防止、青少年健全育成などの活動に取り組んでいる。

9月に入り、募金活動で得られた活動費の一部を市内の中学校へ図書費として贈った。2か月ほどして中学校から封書が届いた。中を開けてみると、図書委員の生徒さんたちからのお礼状だった。私たちのささやかな行為に、きれいな文字で感謝の気持ちが素直につづられていた。みんなで相談して買った数冊の本の写真が添えられていた。予想もしていなかったのが、私たちはこのお礼状に驚き、感動した。中学生といえは難しい年頃という先入観があるが、こんなに礼儀正しく素直な生徒が育っていると思うと、教育の素晴らしさを改めて感じた。

平成二十五年 川越市更生保護女性会総会

六月七日(金)、市民会館の会議室で開催され、約八十名が出席した。

原田会長のあいさつ「本年度第四十七回の総会であり、間もなく創立五十周年になります」という川越市更生保護女性会の歴史が披露された。来賓として保護司会の根岸理事様からご祝辞をいただいた。

議事に入り、平成二十四年度事業、決算、監査報告の承認。平成二十五年度の事業、予算案の承認がなされ無事に終了した。総会後の講演会が行われた。

「活動は誇りを持って謙虚に」

坂戸地区更生保護女性会
前会長 讃井たつ子様

二十三年度に「子育て支援地域活動指定地区」となり、PTA連合会との連携や各支部の実情に合わせた活動を熱心実践している様子が語られた。また、「更女だより」を市内全戸に回覧していることにも感服した。



心を結ぶ絆づくり

手っ取り早さは学びにはならない,,

対応を心理学の観点から見る

鈴木由美子氏を講師にむかえて ——



子どもの考える力をのばす、親子関係のつくり方

◎親業三つの柱「聞くこと」、「話すこと」、「対立を解くこと」

親業とは…親としての役割、つまり「一人の人間を生み、養い、社会的に一人前になるまで育てる」仕事に携わることです。

ポイント1

✕ コミュニケーションが途切れやすい対応

- 親の意見や考え、経験を言う
- 命令、説教、脅迫
- 提案、講義、避難
- 尋問、ごまかし

ポイント2

○ コミュニケーションが途切れない対応

- 受動的な聞き方（うなづき、あいづち）
- 能動的な聞き方（繰り返し気持ちをくむ）

（講師からの資料より抜粋）

事例の1つ1つが
すべて当てはまるので
耳が痛いです

おこり方 ほめ方
改めて学んだ気がします。
子どもの心をしっかりと
つかみたいです

私の子どもは
成人になりました。
でもとても勉強になり
心が軽くなりました

親は、子供の考えを
聞く。それが信頼関係の
生まれる近道に
気がきました。

感動しました。
特に事例を多く
取り入れたことで良く
理解出来ました

子どもたちの話はゆとりを
持って最後までしっかりと
聞く。命令では反抗心を
持たせるだけなのです

子どもを信じて
子どもの気持ちを聞く
ようにします

孫が6人
1人1人性格をよく観察し
親の教育方針の邪魔になら
ない助言をしてゆきたい
70代男性

親業という言葉は
聞いたことはありましたが
とても大切な業
なのです

感情的にならないで
一呼吸おいてのコミュニ
ケーション努力します

親と子の関係ばかり
ではなく対人関係にも
通じるポイントでした
“コミュニケーション”の
取り方反省です

“人の気持ちを大切に”
これからはこの言葉を頭
に入れて子どもや家族に
接したいです

社会貢献

自己実現

名誉・自尊

社会性

安心・安全

生理的欲求・餓え

参加された皆様の声

（マズローの欲求5段階）

欲求は
段階的に満たされる事で
社会へ尽くし役立つ心が育ってゆく



川越市マスコットキャラクター
ときも



優しい語りで説得力のある鈴木由美子講師

親業講演会 親と子の 特集 “すぐ簡単に対応する、 コミュニケーションが途切れない

—— 親業訓練教会インストラクター

平成25年9月20日(金) 川越市民会館 第1～3会議室に於いて、子育てを親業として学び、考える講演会を開催、市内の小、中学校 PTA、育成会、民生委員、自治会などの諸団体へご案内をしたところ70代男性から20代の若いお母様と幅ひろい方々のご参加を頂き、いじめ、虐待、育児放棄と子どもたちの受難期といわれる今、親としての役割をもう一度振り返り、見直す機会となり、貴重なご意見・ご感想、まさに生の声を沢山聞く事が出来ました。ご協力ありがとうございました。



受講風景

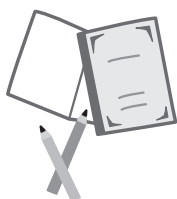
「親業講演会に参加して」

上戸小学校PTA会長 石川 一明

私自身4人の子どもを持つ父親です。長女は成人になりましたので、20年以上子育てをしておりますが、その間、非常にめまぐるしいスピードで子どもたちの取り巻く環境が変化していることを痛感します。そして、昨今の親子のコミュニケーション不足の現状をも感じます。私も含め、時に「子どもの気持ちが分からない」「子どもへの接し方が分からない」と悩んでいる親も多いのではないのでしょうか。

講演会では、親業三つの柱「聞くこと」「話すこと」「対立を解くこと」を中心に「家庭教育のあり方、親子のコミュニケーションのとりかた」等を学びました。子育ては正直決して楽ではありませんし、まして親の言うとおりにいきません。しかしながら、子育てには少なくとも0点も満点もないのだらうと思います。

親として子どもを信じ、正面から向き合い、価値観を押し付けることなく、子どもと共に歩むことが大切だと改めて実感いたしました。そして、なによりも「私(親)の子どもでいてくれてありがとう」その思いが一番なのではないのでしょうか。



「大切な親子の信頼関係」

子育て真っ最中です 生井沢 恵理子

私は四歳と十ヶ月の子を持つ母親です。子どもの成長について、同じ悩みを抱える四人の友人と共に、子どもたちを連れて参加しました。

まず、冒頭から衝撃が走りました。我が子との会話で「○○しなさい」「○○しないと○○しちゃだめよ」と、何気なく使っていた言葉が実は子どもへの「脅迫」だと話されたのです。また、我が子のためにと先回りした行動が、子どもの自己肯定感を失わせ、自立の妨げをしていると。

「ママは怒ってばかりでイヤ!」と娘に言わせる原因も、母親の私にあることを理解し、私自身が変わり、子どもとともに成長しなくてはいけないのだと考えるきっかけを頂いたように思います。帰宅してすぐに実践しましたら、娘が寝るまで、お互い笑顔で楽しく過ごせました。忙しい家事、育児の合間でも、できるだけ娘の話に耳を傾けてあげなければならないのだと再認識いたしました。

その日の夜、一緒に参加した友人から「早速我が家も実践し、いつもより平和に暮らせてます」とメールが届きました。始まったばかりの子育てですが、親業の考え方を大切に子どもとの信頼関係を深めていけたらよいと思いました。

今年度の活動

五月十九日(日)

ふれあい福祉まつり(伊佐沼)

.....十一名会場案内係

七月二十七日(土)

社会を明るくする運動

.....十二名でうちわくばり

七月中

愛の募金活動全会員

八月二十七日(火)

川越少年刑務所の誕生会に

招かれて六名参加

九月三日(火)

市内中学校へ「愛の図書費」を

贈呈五名

九月二十六日(木)

西ブロック研修会

針ヶ谷コミュニティセンター

.....十三名

十月十日(木)

四地区交流会

坂戸市オルモにて...十一名出席

十月二十三日(水)

川越少年刑務所の体育祭に

招かれ十名参加。

十月二十五日(金)

施設訪問「茨城農芸学院」に

三十八名が参加。

十一月二十日(水)

中堅会員研修会 浦和にて

十三名参加。

十二月十七日(火)

新会員研修会

浦和コミュニティセンター...七名

茨城農芸学院を訪問して

牛久市の緑豊かな素晴らしい環境の中で更生のため心の教育、職業資格の取得を目標としている学院です。



茨城農芸学院の職員のみなさまと
少年達の姿は見掛けませんが、施設を見学しながら、一日でも早く取得し、社会復帰されるよう心から祈り施設を後にしました。

中学校へ愛の図書費贈呈

更生保護女性会は例年、図書費を市内の小中学校に届けております。今年度は中学校四校へ贈りました。図書委員たちは、早速全校生徒にアンケートをとって、希望の図書を購入し「楽しく読ませていただきます」と丁寧な御礼がありました。

きちんとした書画、



芳野中学校より

美しい文字、選んだ本の写真も添えて。生徒たちの健やかな笑顔が目に浮かび、更女一同大変感動しました。

受賞おめでとう

『第六十回埼玉県更生保護大会』

十一月八日(金)

埼玉会館大ホールにて
○日本更生保護女性連盟
会長表彰 原田 菊子○さいたま保護観察所
所長表彰 塚原 紘美
諸星すみ江
矢部美知子○埼玉県更生保護女性連盟
会長表彰 新井 とよ
小沼 久子
小峰 和子
三上 朝子
小川 道子

編集後記

第十六号の更女たよりは、如何でしたか。今までと少し、企画を変えて、子育てに大切な講演の特集を組みました。

工夫した紙面に興味を抱き、多くの方々が、読んで下さり、日々の会話の中に、活かしていただければ、一同、幸に存じます。

当日講演会に御出席下さり、その感動を生きいきと伝えようと、御寄稿下さった方々、この編集にご協力下さった皆様に、心から感謝申し上げます。

編集委員

原田 菊子 塚原 紘美
塩野 槇子 宮根 順子
田邊 純子 水井 和江
福羅喜代子

愛の募金

募金総額 723,200円

県更女連盟 216,000円

地区活動費 507,200円

上記の通りご報告致します。

会計 野崎 昭子
田邊 純子